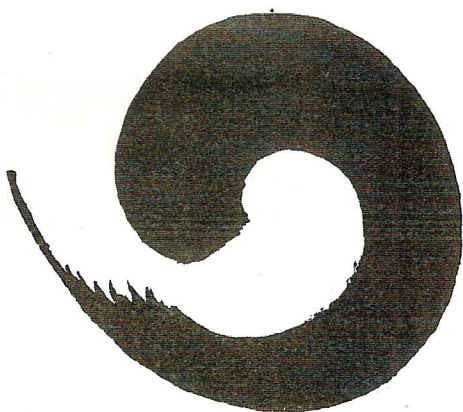


○ 「わ」40周年特集号
(通算第10号)

平成 4年(1992)11月創刊
平成12年12月20日 発行



発行責任者 武蔵大学剣友会

長谷川 勲

編 集 松井邦夫

10月8日

剣道部創部40周年

記念行事開催される



創部四十周年

菅野昭浩兄昇段

記念合同稽古会

秋田からも九州からも防具を担いでやって来た!

十月八日午後十二時には、松森先生、西川先生、酒井先生の招待の諸先生方が、学生会館六階「練心館」への階段を昇ってこられました。その後続々と到着する会員。招待者は、三十八名。名古屋に単身赴任中の五十嵐氏(昭五五卒)は、高校生のご子息と親子で参加されました。これに剣道部員十七名を加えて、稽古会が始まりました。旧制高校の先輩方、警視庁の諸先生に元立を先ず、旧制高校の先輩方、大勢います。松森先生、西川先生、酒井先生から「この様な場に出向けるのは家庭も仕事もそれなりに安定しているからです。今日はこんなに大勢の人々が集まってくれて本当に嬉しく思います。」というご挨拶を戴きました。この後の風呂の賑やかさは皆様の想像にお任せ致します。秋田から参加の米井さん、宮崎からの中村さん、佐賀からの原さん、お疲れさまでした。さて記念祝賀会が始まるぞ!

十月八日午後十二時三十分、開場を待ちきれない遠来の会員は、早々と受付を済ませます。こころは、武蔵大学々生ホール。正面演壇には紅白幕が張られ、テーブルには、飲み物、食べ物がたっぷり用意されて、参加者の入場を待っています。剣友会の宴は、飲み物ばかりが減ってしまつたのが、特徴です。午後四時、練心館から運び込まれた大鼓の合図で祝賀会が始まります。司会は薄上重幸氏(平二卒)と国岡おかね氏(平三卒)が勤めます。渡邊主将(三年生)の「ちょっと緊張きみの開会宣言、伊藤部長の式辞、関根名誉師範の祝辞と続き、待ちに待った松森師範の乾杯で宴会は俄に盛り上がりつつ来ます。会場の彼方此方で同期や同世代の輪が出来ました。昭四三年卒は、五名(天沼、水木、高森、青木、塚田)の各氏が参加しました。鳥取大地震にも関わらず遠路参加の塚田哲也氏は、そのラベルに「刀を携えた宮本武蔵をあらわした日本酒「武蔵の里」を二本ご持参になりました。「減り方が遅い。酒の味が解らんと連う」と言つて回りの方々に勧めておられましたが、通り掛かつた渡辺監督(昭四六卒)が「こりゃ旨い酒だ」と言つて、ガバゴボと飲んでしまいました。こんな光景がそこちこちにみられるようになった頃、輪投げコーナーでは、

創部四十周年 記念祝賀会

昭和の卒業生も平成も家族連れも独り者も飲んで話した二時間半

ご家族連れが盛り上がりつつあります。百個程用意した景品もほだなく無くなくなりました。輪投げコーナー担当光藤先輩、ご苦労様でした。午後四時を回つた頃、「皆で唄おう」が始まりました。石崎先輩(昭四六卒)の「剣道小唄」に続いて、故伊能部長夫人も参加されて、旧制高校の先輩方による「西修行」が元氣一杯に唄われました。その後いろんな先輩方がいるんだ歌を唄つたようですが、筆者も心地よくなってよく覚えておりません。菅野昭浩氏の六段昇段のご披露は、剣友会から記念品(高級竹刀袋)、剣道部から花束が贈呈されました。福島県の中で学校で教鞭をとる傍ら、こころと稽古に励まれ8月郡山で開催された昇段審査で認定されました。「当剣友会には、七段が五名、六段は十人目が、誕生したことになります」と長谷川会長から、お祝いの言葉がありました。予定より、少し遅れた午後六時三十分頃参加者全員が肩を組み、「武蔵警歌」を唱和し、中島先輩(昭四三卒)の発声で恒例「弥栄」を三唱しました。午後六時五十分、長谷川会長の「閉会のご挨拶」で、終了となりましたが盛り上がりはまだまだ々々二次会へと続きます。残念ながら欠席された会員の方々も、二ペーシからの写真でお楽しみ下さい。



40周年記念稽古会

40周年記念稽古会



祝賀会前の稽古会。連絡係は「何人参加されるだろうか」と心配してましたが、こんなに大勢の方々が集まりました。懐かしい顔を見つけて下さい。地方で剣道を続けておられる会員も、沢山いるのだと知りました。東京にいても殆ど出会うことの無かった先輩方も稽古ができました。六十一歳から十八歳までが集まって汗を流す。剣道を続けていて良かったと思ひ、「剣縁」という事に思いを寄せた稽古会でした。





午後 3 : 30

準備OK!



受付開始



本日のスケジュール

午後 3時 30分
4時

受付
開会宣言
ご挨拶

受付で名札と記念品をお受取りください。

剣道部

渡邊博之 主将

剣道部長

伊藤成康 先生

剣道部名誉師範

関根日吉 先生

剣道部師範

松森信秀 先生

輪投げプレゼント

先着順に受け付けます。

4時 30分頃
5時 15分頃

乾杯
歓談
みんなで唄おう

剣道小唄

昭46卒 石崎猛氏
旧制高校剣友会の皆様

西征行

昭46卒 石崎猛氏
旧制高校剣友会の皆様

俺にもやらせろ

飛入歓迎

6時 15分

昇段のお祝い

記念品贈呈

昭60卒 菅野昭浩氏
歌詞は3枚目を参照下さい

6時 30分

武蔵大学賛歌

現剣道部員

昭42卒 中邑房夫氏

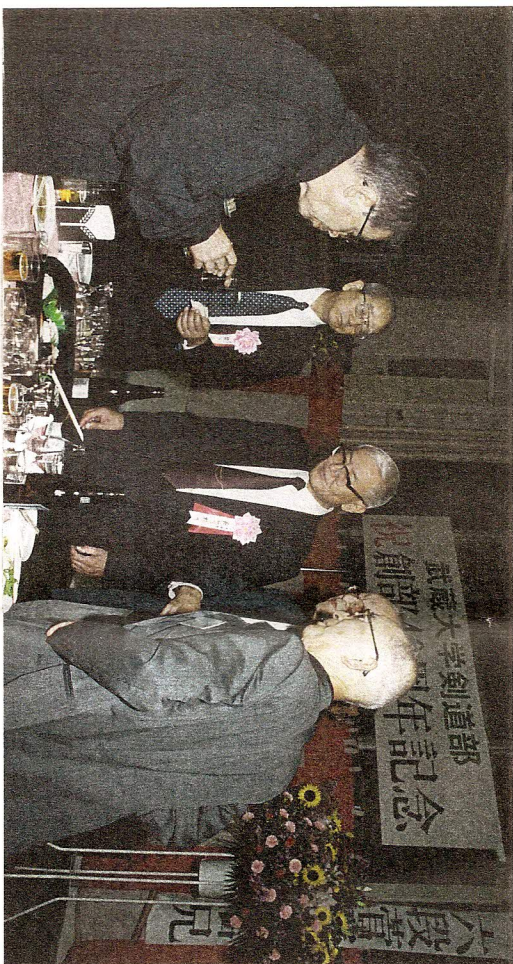
6時 30分

閉会のご挨拶

武蔵大学剣友会

昭42卒 中邑房夫氏
長谷川勲会長

ご来場有り難うございます。まだまだ尽きないお話しは二次会で。
ご案内は四枚目裏面に。



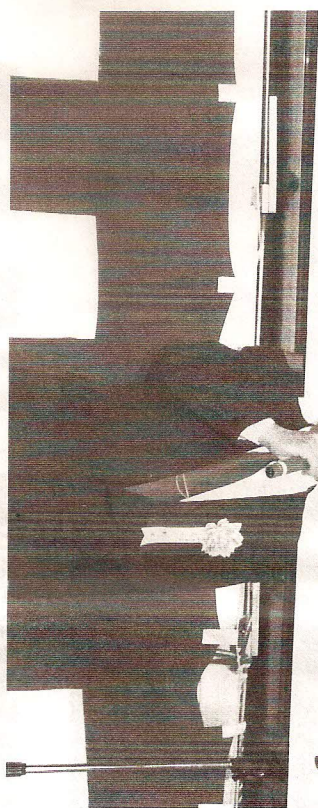


記念祝賀会



それは乾杯で始まる

武蔵大学剣道部創部50周年 つた



極度の緊張の中、司会をさせて戴きましたが、皆様の暖かいご支援のおかげで、無事大役を終えることが出来ました。特に日暮先輩をはじめ、諸先輩方の流暢な進行、盛り上げに、自分の立場を忘れて感動してしまいました。50周年にむけ、一日も早く先輩方の絶妙なテクニクを会得しようと念じつつ、竹刀ではなくマイクを握り締めている今日この頃です。

祝賀会司会 溝上重幸氏 (平成2年卒)



午後 3 : 3 0

準備OK!



受付開始



本日のスケジュール

午後 3時 30分
4時

受付
開会宣言
ご挨拶

受付で名札と記念品をお受取りください。

4時 30分頃
5時 15分頃

乾杯
歓談
みんなで唄おう

剣道部
剣道部長 渡邊博之 主将
剣道部名誉師範 伊藤成康 先生
剣道部師範 関根日吉 先生
輪投げプレゼント 松森信秀 先生
剣道小唄 先着順に受け付けます。
西征行 昭 4 6 卒 石崎猛氏
飛入歓迎 旧制高校剣友会の皆様

6時 15分

俺にもやらせろ
昇段のお祝い
武蔵大学賛歌
弥栄

記念品贈呈 昭 6 0 卒 菅野昭浩氏
現剣道部員 歌詞は 3 枚目を参照下さい
武蔵大学剣友会 昭 4 2 卒 中邑房夫氏
長谷川勲会長

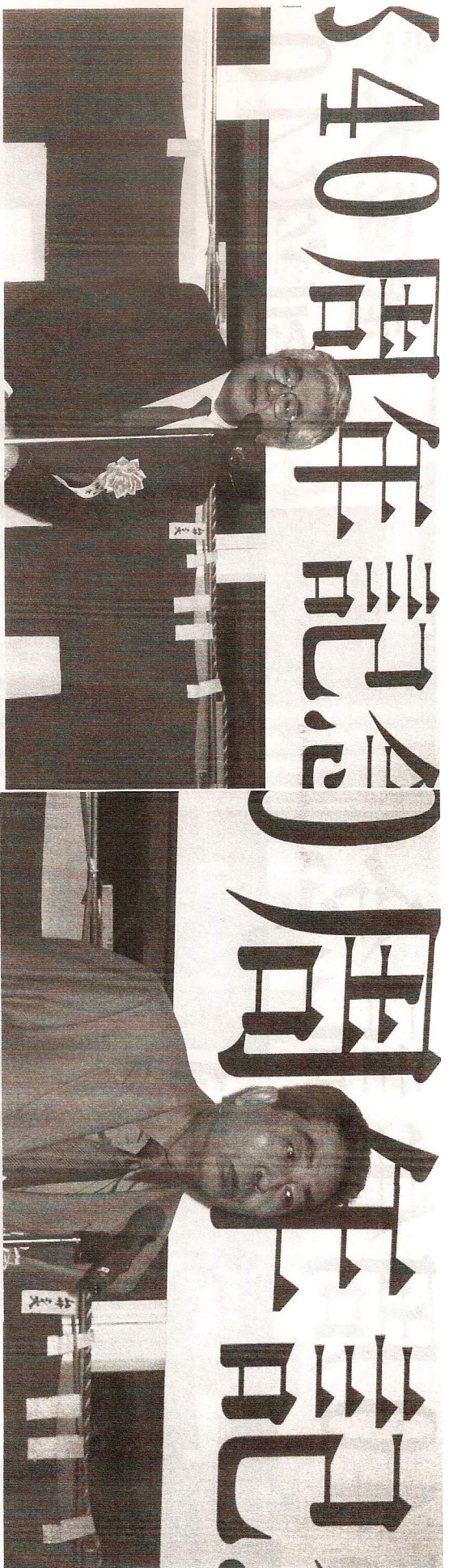
6時 30分

閉会のご挨拶

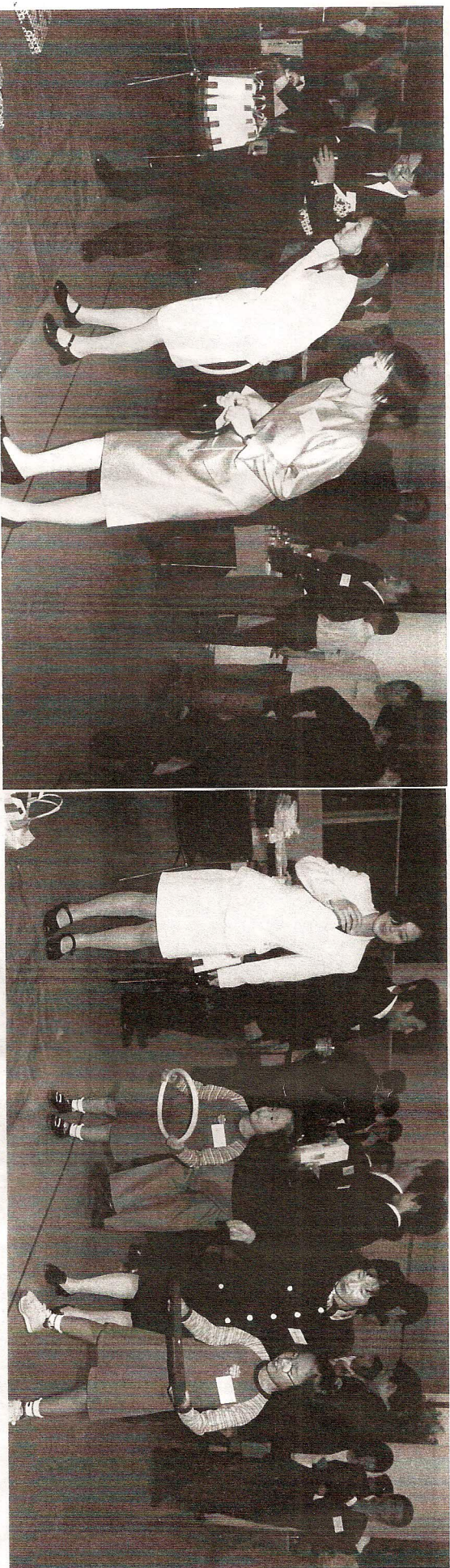
武蔵大学剣友会

ご来場有り難うございます。まだまだ尽きないお話しは二次会で。
ご案内は四枚目裏面に。





来賓のご挨拶



大盛況輪投げコーナー



飲みました・食べました・喋りました



昇段おめでとー菅野先輩

540周年記念



武蔵大 創部40



40周年記念事業プロジェクト
水木チーフからのメッセージ

40周年記念行事を終えて

昭和43年卒 水木 征二

皆さん、お元気ですか？

武蔵大学剣道部創部40周年記念行事にご協力ありがとうございました。去る10月8日に行われました祝賀会を最後に、記念行事は終了しました。すべてが100点満点とまではいきませんが、おおむね皆さんに満足いただけたのだと思います。これも会員の皆様のご協力とプロジェクトを推進していただいた方々のおかげと深く感謝しております。

記念稽古会は50名を越す方々の参加を得、また祝賀会は150名超の出席者を数え、大変盛り上がりました。遠隔地からの多数の参加、女子0Gは”未来の武蔵大学剣道部員”を同伴してくださり、アトラクションのひとつの輪投げによる抽選会も盛況を極めました。

ご臨席いただきました来賓の方々も学校および同窓会関係者、旧制武蔵高校剣友会の方々、そして平素ご指導をいただいている警視庁の先生方、また剣道を通じてご縁のできた方々と多岐にわたり、武蔵大学剣友会の存在を改めて再認識された方々も多いのではないかと思います。

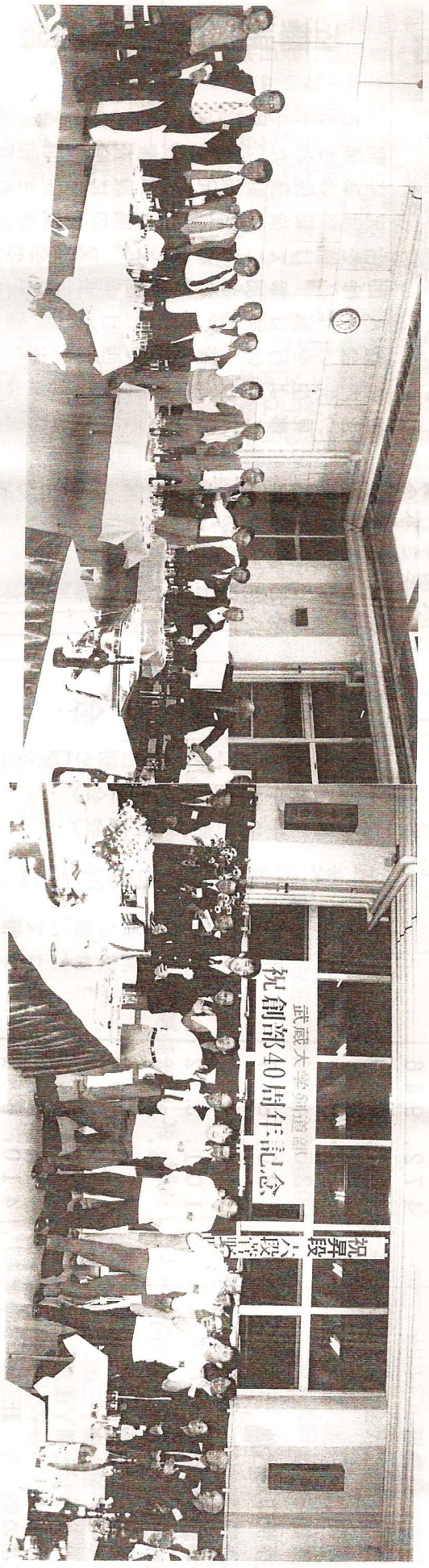
バブル崩壊以後の厳しい経済情勢の中、心配された収支も別紙会計報告にありますように、無事帳尻も合い、何がしかの上納金を剣友会へお渡しすることもできました。これも皆様の温かいご支援のおかげと改めて御礼申し上げます。

武蔵大学剣道部は現在部員17名、試合出場も危ぶまれる危機的状況にあります。何とか40周年の伝統を引き継いでもらうために部員獲得に剣友会員のお力をいただきたいものです。ご協力をよろしく願います。

最後にになりましたが、武蔵大学剣道部、ならびに武蔵大学剣友会の『いやさか』を折念して報告を終わります。本当に有り難う御座いました。

合掌





やっぱい終わりは唄って弥栄



受付の皆様お疲れさま

四十周年記念事業会計報告

役員会で承認される

去る十一月二日開催された役員会で、「四十周年記念事業プロジェクト」の水木征二氏から報告があった。これによると、「祝賀会」の参加者は会員九三名、同伴者二〇名、来賓三名、剣道部員十六名、合計百六一名の参加であった。又、会場でのＴシャツ販売は、約九十枚と、大変好評だった。至らぬ点もあったが、参加の方々には、概ね満足いただけたと思う。事後の作業も終了したので、本日をもってプロジェクトを解散する旨の報告も併せてあった。

その後、大竹会計幹事より会計報告があり、収支は約四十三万円の黒字であったと、報告された。まだ来賓へのお礼状の発送経費等の支払いが終わっていないが、本日を以て剣友会年度会費に組み入れたことの提案がなされた。役員会はこれを全員一致で了承した。又四十周年記念事業特別会費について、今後会員からの自発的入金には拒むものではないが、会として積極的な徴収は行わない事が、申し合わされた。

建学五十周年記念に寄付十五万円

十一月二日開かれた役員会で、当剣友会から「武蔵大学建学五十周年記念事業」に十五万円を寄付する事が決められた。

40周年記念事業会計報告

平成12年10月26日

収入の部		支出の部	
特別会費 (郵便振替分)	540,000	記念誌製作費	346,500
特別会費 (当日分)	95,000	Ｔシャツ製作費	241,500
当日会費	582,000	パーティー費用	472,946
寄付金 (郵便振替分)	208,000	来賓用土産代金	37,800
来賓お祝金	285,000	接待費	20,694
Ｔシャツ等販売代金	92,000	会議費	25,434
収入の部 合計	1,845,000	挨拶状印刷代他	30,817
		郵送費(記念誌・案内状等)	118,560
		会場設営諸経費	101,322
		振替手数料(郵便・銀行)	8,265
		Ｔシャツ及現像代	6,543
		支出の部 合計	1,410,381
		残 高	434,619

佐藤則夫兄 六段昇段

去る十一月二七日、東京の日本武道館で開催された、六段昇段審査会で昭和五十一年卒業の佐藤則夫兄が、六段に認定されました。兄は卒業後、地元神奈川県剣道連盟で稽古を続けてこられました。又当会の秋の合宿には必ず参加され、今回(平成十二年十一月八・九両日開催)も二日に昇段審査の為に立会いを行い、警視庁の西川先生、松森先生、竹内先生より技術、精神面からのご指導を戴き、見事に六段昇段を果たされました。

平成十三年一月六日三時から錬心館で、祝賀会は同日六時から江古田「鳥忠」で、それぞれ「稽古初め」、「新年会」と合わせて開催致します。お誘合せのうえご参加いただき、賑やかにお祝いしましょう。

一月の稽古会

六日 午後三時 稽古初め(剣友会・剣道部)
 十三日 午前十一時(剣友会)
 二十七日 午後三時(剣友会)

卒業生追出稽古・追出コンパ

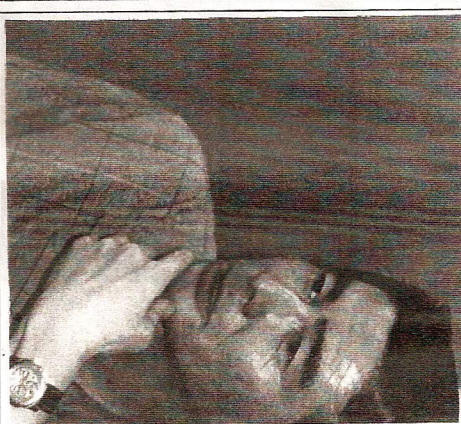
二月十日午後三時より錬心館にて稽古
 午後六時より鳥忠にてコンパ

年次	項目	監督	部長	師範	主将	主務
昭和52 平成4	四大学女子団体優勝 四大学男子個人優勝 四大学女子個人優勝 秋季東都大会女子団体 々々 男子個人三位 々々 男子個人三位	伊能 敬	波多野登志夫	笹川敏広	鳥海秀夫 音泷省一郎	福田正人 高橋 誠
5	四大学女子個人二位 春季東都大会女子団体 秋季東都大会女子団体 々々 女子個人三位 棍谷浩子	伊能 敬	波多野登志夫	渡辺欽五	若狭公毅	高橋 誠
6	四大学男子個人優勝 四大学女子個人二位 秋季東都大会女子団体 女子団体全日本出場	伊藤成康	波多野登志夫	渡辺欽五	中島久典	吉田克也
7	四大学女子団体優勝 四大学男子個人優勝 四大学女子個人二位 秋季東都大会個人二位	伊藤成康	波多野登志夫	渡辺欽五	宮本健二	吉田克也
8	四大学女子団体二位 四大学女子個人三位 秋季東都大会男子団体 々々 個人三位 春季東都大会女子団体	伊藤成康	波多野登志夫	渡辺欽五	中野誠享	行本 哲
9	女子個人戦8 女子個人戦8	伊藤成康	波多野登志夫	渡辺欽五	川津秀一郎	山本 剛

上記2行は平成10年に記載されていますが、平成9年の誤りです。

計 報

大塚邦夫兄 享年五二歳
昭和四十七年卒業
平成十二年十一月二十七日肺癌の為に逝去



編集後記

十月八日に「創部四十周年」の記念稽古会と祝賀会が開催され、十月末日迄には皆さんのお手元へこの機関紙をお届けしようと思念をこめていたのですが、生来の「のんびり屋」がクマクマと頭を出してこんな時期になってしまいました。先ずお詫びを申し上げます。さてこの号は稽古会、祝賀会に参加できなかった各位にも、その雰囲気や懐かしさを僅かでも感じて戴けたらと紙面も大きくし、写真を多く掲載致しました。昨年来、水木征二氏をテーマに四十年記念事業のプロジェクトが発足し、会費集めやらTシャツ作りやら、記念誌の編纂やらと、沢山の事業が進められてゆく様子です。ついでに、お聞きいただき、本当に頭の下がる思いでした。出来ればその様なシーンも皆様にお届けしたかったのですが、その辺りが不十分だったと反省しています。本号で一番心えたのは、最後にこの上の欄（計報）を記載するときに、七月のとても暑い日に、大塚兄から「肺ガンで余命いくばくもありません」と電話を受け、おろろする自分をどうしようも出来なかつたのを感じ、もっと早く発刊していれば、記念誌の発行に尽力された大塚兄にも読んでもらえたものをと、自らの無能を呪っています。各位にはどうぞ良いお年をお迎えください。（松井記）